

# 小学校 第5年 外国語科 学習指導案

北海道教育大学  
名誉教授 石塚 博規

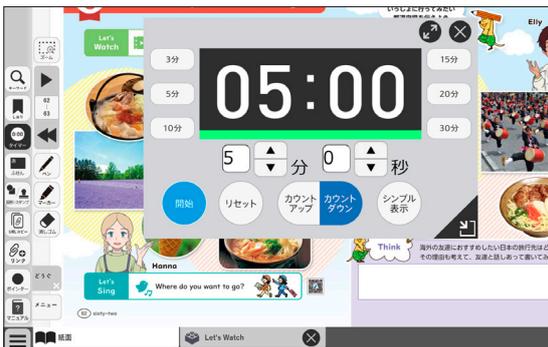
**単元名** Lesson 6 (Welcome to Japan 名所・名物マップ) (7時間)

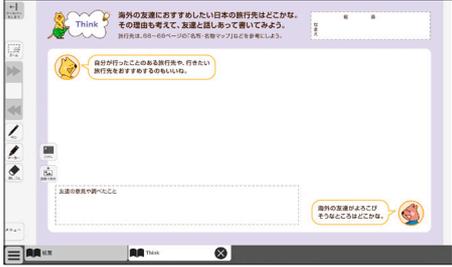
**単元のねらい** 海外の友達といっしょに行ってみたい都道府県を伝えよう。

**本時のねらい** 映像を通して、行きたい場所などに関わる表現に慣れ親しむ。また、Lesson 全体の見通しをもつ。(第1時)

**指導時期** 10月～11月頃

## 本時(第1時)の展開：

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>「指導者用デジタル教科書(教材)」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</li> </ul> <p><b>あいさつ (2分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Small Talk : What do you do on weekends?</li> </ul>	
展開	<p><b>Let's Watch (15分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4人の動画を一度視聴し、わかったことをメモする。(一斉学習)</li> <li>ペアでわかったことを確認する。(協働学習)</li> <li>再度視聴し(一斉学習)、ペアで確認する。(協働学習)</li> </ul> <p>「学習者用デジタル教科書」の動画を児童が2～3分間で何度か視聴する。(個別学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体で確認する。(一斉学習)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書p.62～63の4人の「映像」を順に再生する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>わからない場合は、スピードを遅くする。</li> <li>ツールバーの「どうぐ」➡「タイマー」を使い制限時間を表示する。</li> </ul> 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<b>Let's Sing (3分)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1度めは聞き、2度めは一緒に歌う。(一斉学習)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書p.62 「Let's Sing」を再生する。</li> </ul> 
	<b>ゴールを確認する。Think (20分)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書p.66からの地図を参考にしながら、2～3分間で海外の人におすすめしたい日本の旅行先とその理由を考える。インターネットなども活用する。(個別学習)</li> <li>● グループになり、おすすめする旅行先とその理由を共有する。その際、児童間で「そこには～もあるよ」といった情報交換をし、考えを深める。(協働学習)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書p.63 「Goal」を拡大表示する。</li> <li>● 「Think」を拡大表示する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習支援ソフトウェアにある表計算ソフトに1人1行を使って旅行先と理由を書きこむ。</li> </ul>
まとめ	<b>振り返り (5分)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時で学んだこと、わかったこと、ゴールにどこまで近づいたかを振り返り、記入する。</li> <li>● 数名を取り上げ、振り返った内容を全体で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習支援ソフトウェアにある表計算ソフト等で作成した「振り返りシート」(デジタル版)に記入する。</li> <li>● 共有された振り返りシートから数名を取り上げ、表示する。</li> </ul>

## 指導者用デジタル教科書(教材) 活用の実際

「指導者用デジタル教科書(教材)」や「学習者用デジタル教科書」「学習者用デジタル教科書+デジタル教材」の活用の目的は、個々の児童の実態に応じた個別最適な学びと、ペア学習やグループ学習による協働的な学びの効果を最大限に発揮することにある。以下は本時での具体的な活用場面と期待される効果である。

### 理解を支える視覚情報の活用

本時は Lesson 6 の第1時間めであるので、本単元で何ができるようになることが目的なのか、そのために、どのような表現を使ったらよいかを理解することをねらいとしている。本時の「展開」では、最初に、「指導者用デジタル教科書(教材)」に掲載されている動画による視覚情報を、英語音声と合わせて提示することで、目的に向かう児童の興味・関心を高めるとともに、レディネスの形成、聞き取る音声のより容易な理解を促すことにつながる。

### 個別最適な学びを促す音声・動画教材の活用

動画を視聴したあとで、学習者用デジタル教科書の音声・動画教材(Let's WatchやLet's Say It Together)を使い、児童がおのの自分の聞き取れなかった部分を、再生スピードを変えながら繰り返し聞き、内容を理解するよう働きかけることで、個々の児童の実態に合った、個別最適な学びを促すことができる。

### 協働学習を支える学習支援ソフトウェアや学習者用端末の活用

ペア学習やグループ学習を行う際に、学習支援ソフトウェアの「共有」機能を効果的に使うことで、ともに学ぶ児童の気づきや考えに容易に触れることができるようになり、協働的な学びを促すことにつながる。本時では、海外の人におすすめしたい旅行先について、グループ学習において個々の児童の知識や考えを共有している。また、それらの旅行先についてインターネットなどで調べながら、旅行先の知識や理解を深め、海外の人に魅力的な旅行先であるかどうかの考えを深め決定する場面で学習者用端末を活用している。

デジタル教科書や教材は使うこと自体が目的ではない。そのため、すべての機能に熟知していなければならないということはない。使いやすい機能から使い始め、少しずつその他の機能の使用も取り入れていくなど、個別最適な学びや協働的な学びにつながる使い方を模索していくことが大切である。